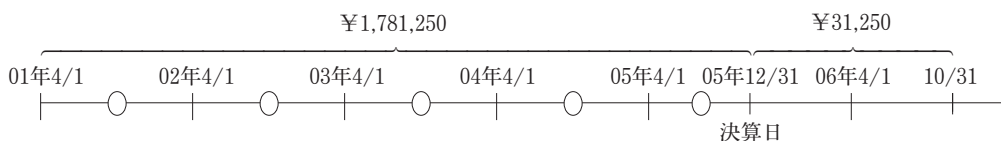


## 第122回 日商簿記検定一部改題（解説）

### 第1問

1. 店主の所得税¥112,000と固定資産税¥189,000の10%分の合計額¥130,900は、引出金勘定で処理する。
2. 受取利息は、9カ月分計上する（ $¥400,000 \times 0.048 \times \frac{9}{12} = ¥14,400$ ）。本問は、二勘定法が採用されているので、まず当座借越¥123,000を相殺すること。
3. 約束手形の裏書譲渡¥200,000は、受取手形勘定を減少させる。為替手形¥250,000を振り出しているが、これに関しては、かねてより売掛金のある得意先に対する売掛金を減少させることになる。なお、引取運賃¥3,000は、仕入勘定に含めるので注意すること。
4. 商品販売の手付金は、前受金（負債）として計上されているので、これを減額する。裏書譲渡された約束手形は、受取手形勘定で処理する。当社負担の発送運賃は、発送費勘定で処理する。
5. 減価償却累計額の計算は、下記のような図を書いてみるとよい。



$$\text{平成06年の減価償却費} = (¥2,500,000 - ¥250,000) \div 6 \text{年} \times 10/12 = ¥312,500$$

なお、借方に出る差額¥56,250は、固定資産売却損勘定で処理し、商品売買以外の代金の未収に関しては、売掛金ではなく、未収金で処理する。

5.については、

(借) 減 価 償 却 費	312,500	(貸) 車 両 減 価 償 却 累 計 額	312,500
未 収 金	350,000	車	2,500,000
車 両 減 価 償 却 累 計 額	2,093,750		
固 定 資 産 売 却 損	56,250		

でもよい。

### 第2問

本問は、分記法で処理された商品売買の取引を3分法でやり直す問題である。分記法の場合には、商品を仕入れたら、原価で商品勘定の借方に記入し、逆に商品を販売したら、原価で商品勘定の貸方に記入し、売却価額と原価との差額を商品売買益勘定で処理することになる。

4/7 (借) 買 掛 金	6,000	(貸) 仕 入	6,000	(仕入戻しか仕入値引の処理)
4/10 (借) 仕 入	25,000	(貸) 現 金	25,000	(現金仕入)
4/21 (借) 売 掛 金	57,000	(貸) 売 上	57,000	(掛売)
4/22 (借) 売 上	12,000	(貸) 売 掛 金	12,000	(売上返品)
4/29 (借) 売 上	3,000	(貸) 売 掛 金	3,000	(売上値引：商品売買益のみが減少と なっており、売上値引の処理をしたものと推定される)

### 第3問

本問は、残高試算表を作成する問題である。合計試算表を作成する問題ではないので、注意しなければならない。

平成×1年5月中の仕訳を示すと、次のようになる。